

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	モン・サン あぜかり I		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果確定日	平成30年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=4270104054&SVC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>環境整備、レクリエーション、水分補給に力を入れている。 それぞれに入居者様の楽しく過ごしやすい環境、健康に配慮し日程を決めて、定期的にレクを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自治会からの要望でゴミ置き場の掃除、班清掃を行う、地区運動会に地域住民として参加する、地域の夏祭りで太鼓を叩く、地域の小学校の要望で「年を取るといことは」と称して2時間授業を行い、小学生とホームで交流する、小学校の遠足時にトイレを開放する等、常に地域住民との相互関係作りを行っている。入居者様、家族の意見や要望を受け、迅速に委員会改善策を検討してサービスの向上を図り、改善点は文書にして玄関に掲示して家族に公表している。家庭的な雰囲気の中でスタッフ間のコミュニケーションがとれ相談しやすい環境が整っている。そのため長期間動いているスタッフが長く、スタッフの確保に繋がっている。介護計画の原案を全スタッフで話し合い、一人ひとりが意見を出し合って作成し、具体的な支援内容を検討することが統一された支援に繋がっている。豊かな自然の中でゆったりと安心して暮らしを大切にしているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホームの理念、あぜかり独自の理念を理解し、日常業務が理念に結びつく様に心掛けている。	法人理念を基に、入居者様を敬う気持ちを大切にしたいとの思いで、ホーム独自の理念をホーム長が作成している。理念に沿って各委員会の目標を立て、日々の支援に繋いでいる。理念は新人研修時にホーム長が説明している。	法人理念を基にホーム独自の理念を作成しているが、理念をスタッフと共有し意識づけを行う必要がある。今後、研修やカンファレンス、また日常的にホーム独自の理念を説明し、全スタッフが理念を理解し、理念を意識しながら日々の支援に取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に入居者様にも参加して頂き、自治会の加入や団地の夏祭り参加、市民大清掃等にも協力させて頂いている。	自治会からの要望でゴミ置き場の掃除、班清掃を行う、地区運動会に地域住民として参加する、地域の夏祭り太鼓を叩く、自治会総会参加、地域の小学校の要望で「年を取るといことは」と称して2時間授業を行い、小学生とホームで交流する、小学校の遠足時にトイレを開放する、年賀状のやり取りを行う等、常に地域住民との相互関係作りを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	鳴見台小学校の総合学習の中で「認知症とは」等の内容で交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政(包括・市役所)の方、自治会の方、入居者様含め、施設の行事、会議、入居報告行い、最後の質問に返答させて頂いている。	会議時に入居者様から「カラオケをしたい」との要望があり、導入してレクレーションとして取り入れる、家族の要望に対して会議で話し合い、地域包括支援センターの意見を受け、委員会で話し合い、対策を検討する等、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に具体的に活かしている。	参加メンバーから意見や要望を受け、双方向的な会議になっている。今後は、改善点を会議で報告することにより、地域の理解と信頼関係を構築していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や包括主催の研修等に参加し、交流を行い、情報収集に役立っている。	地域包括支援センターと研修会の打ち合わせを行い参加する、市からの情報を踏まえて具体的な支援方法や対策を検討する、運営に関する問い合わせをする等、日常的に市との協働関係を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より委員会活動が開始され、月1回は会議を行いながら、意識的にケアの中で拘束に含まれてはいないか等、考える力がついている。	「身体拘束・虐待防止委員会」を立ち上げ、本年度は、言葉遣い(名前の呼び方)に力を入れている。委員会には全スタッフが参加し、日常会話の中で疑問に思った事を全員で話し合うことで、身体拘束に関する意識付けができています。また、入居者様の安全を確保しつつ抑圧感のない暮らしを支援するためにフロアや居室の配置を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、委員会活動の取り組みの1つであり、言葉の虐待を含め意識を深める努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方が5名おり、研修に参加する機会があればと考えている。※現在不明な点は直接伺っている。(弁護士と代行会社の違い等)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者(ホーム長)が行っているが、面会時等、御家族より質問があった際、多少返答が出来る努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に意見箱を設けている。面会時には近況報告を伝え、御家族とのコミュニケーションを図る努力をしている。	家族からの意見や要望を受け、法人とも話し合いを行い、改善を図っている。改善点は文書にして玄関に掲示して家族に公表している。また、家族から習字をさせて欲しいとの要望を受け、ケアプランに繋ぎ実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアのリーダーが各スタッフの意見を収集し、管理者(ホーム長)及び、CMIに報告し、問題解決に繋げている。	スタッフからの物品要望(加湿器、ミキサー等)、浴室への安全でスムーズな移動のために「シャワーキャリー」を各ユニットに購入する、スタッフの意見を踏まえて勤務表を工夫する等、スタッフの意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成前に希望休を伺い、勤務の調整を行っている。立て込んだ勤務にならない様配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく入社して来られた職員に対し、研修記録シートを取り入れ、細かな指導に努めている。再確認の為のオリエンテーションもを行っている。 ※理念の理解。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内・社外研修等を通じ他施設の方々との交流の中で参考になる事は業務に取り入れる検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に対して、御家族及び、本人様の不安感を少しでも軽減する為にもお迎えに行き、ホームへ到着するまで側に寄り添い会話する等の配慮を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、ホーム見学時の対応から始まっていると思う為、現状の状況伺いや、困っている事の傾聴をし、スムーズな入所に繋げる努力を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを行うにしてもその方の生活歴や、その他の情報収集に努め、スタッフに少しでも多くの情報を提供する努力を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の症状が強く出現し、不穏及び、不安感が見受けられた際は、個別支援を行い、話の傾聴を心掛け、安心感を保てる工夫を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は近況報告を事務所、ホールからと出来る様、連携を図っている。御家族からも信頼		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	心の安定、安心が保てる為にも馴染みや、思い出の品(アルバム等)を飾ったり、外出・買い物支援等を行う。	家族に会いたいとの入居者様の言葉を受け、家族に電話をする、友人が訪問する、家族対応で美容室や自宅に出かける、通院の帰りに地域のお店によって買い物をする等、地域との接点を持ちながら関係を継続させるための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの誘い出しを行いながら、出来るだけ居室で1人にならない様心掛ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された御家族様がホームに寄られ、話をして行かれたり、ハガキが届いたりした事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や御家族にホームで生活するにあたり要望を聴き取り、ケアプランに記入している。	会話ができない方でも日常のちょっとした動作や仕草などで判断し、日常生活の支援に活かしている。何気ない会話からも要望を聞き取り意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴、情報収集した物とホームでの生活し始めてからその通りに行かない事も多々あるが、統一した支援が出来る様、話し合いを行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録を重視して行きながら、本人様の「出来る事」「出来ない事」を見極めながら、ケアプラン作成の参考にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	委員会活動から上がってくる課題からもケアプランの中に取り入れる事も出来る為、色々な意見を聴き情報収集と御家族の要望も含め、作成に取り組んでいる。	介護計画に合わせた目標をもとに、実行ができていないかアセスメントを行いそれに基づいて職員会議時に意見を集約する。関わる職員一人ひとりの意見を聞き次回の介護計画を作成し取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録はケアプランを見ながら日々の変化や気づきを記入しており、次回のプラン作成に役立っている。(見直しを含め)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に外出支援を行っている。 ※皮膚科、眼科、耳鼻科と各疾患時に受診に向いている。買い物も個別に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着の1つとして自治会との交流を行っている。団地の祭り参加と小学校との総合学習の協力と交流会を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入所前に母体である医療機関の説明をキーパーソンに行い、外来受診または、月2回の訪問診察(居宅療養管理指導)が行われている事の説明も同時に伝えている。	入所時にかかりつけ医からの医療情報を入力し継続して医療支援が行われている。月2回の定期的な往診が行われるが、必要に応じて外部の受診をし家族と連携した支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が週4回午前中に訪問があり、バイタルの確認、外科的処置等を行っている。また、退院後指導の看護師も随時訪問され退院後の様子をチェックされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、入院申し送りの用紙に食事形態や、排泄状況、服薬の種類、外科的処置等を記入して渡し、退院時は病院より治療内容、最終排便、注意する事柄等の申し送り表を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事が摂れなかったり、著しい体力低下及び、急変(呼吸、意識レベル低下等)が見られた際は、母体医療機関と連携を図り、最善の方法の指示を頂き、Dr及び御家族と話し合いながら決定している。	看取りの実績はないが主治医と看護師が連携し24時間体制で支援が行われており、介護スタッフも安心したケアができています。重篤な状態では医師が家族に説明をしたり、入退院時も継続した医療支援体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員入社時は、心臓マッサージの実演研修を必ず組み込みベテラン職員も再確認の為、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	・地域の方との訓練がなかなか厳しい状況である。 ・火災、防災(地震)訓練 夜間想定訓練、消火器具の点検はなんとか行っている。	夜間も想定した避難訓練が定期的に行われている。災害時には入居者の状況や施設の図面等をいつでも持ち出せるようにしている。居室にかけのれんも消防法に基づき短いものを使用している。非常食や水も3日分は備蓄を行っている。	地震や水害などの災害時を想定した避難訓練が行われていない。いろいろな災害に応じた訓練が行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待防止委員会が立ち上がり、今まで以上に言葉使いや、不快感を与えない様な言い方等の意識が向上していると思われる。今後も継続である。	介護の拒否があっても入居者の気持ちに沿った支援をしている。日常生活の中でのなれ合いの言葉かけを特に注意し、尊厳をもった対応ができるよう配慮しながら支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションに誘い出し、その中で色々な発見や、引き出せる事を工夫しながら、自己表現、自己決定が出来る様仕向けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の拒み、ホールの誘い出し等の拒みが見られた際は、時間を空け再度試みます。せかず様な言葉掛けに注意を行い、その方のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の調整や寝癖の整え、目ヤニがついてないかの確認を行う。月1回の散髪を行っている。(衣類汚染の気づき)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立の説明を行い、自力支援の為、箸、スプーン、フォークの選択や刻み、主食(軟飯or粥)の工夫や、盛り付け及び、量の工夫を行っている。	馴染みある物や好みの食器を使用している。手作りおやつと一緒に作ったり、誕生会にはケーキの飾りつけをおこなっている。入居者の様子を見ながら調理ができ、においや音を感じながら楽しく食事ができる環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態、咀嚼の低下等により、トロミ、ミキサー食に試しに変更してみたり、時には介助を行い完食して頂ける様 努力をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの確認を行い、スポンジブラシの使用を行う方の介助及び、義歯洗浄の手助けを行っている。基本は自立支援及び、見守りを重視しているが、出来ない所の再点検。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックノートで1人1人の排泄間隔や便秘症状ではないかの確認を行っている。オムツ、尿パット、リハビリパンツの用途もスタッフと共に考えている。	日中はトイレで排せつできるよう支援を行っている。入所時にはおむつを使用していた方もリハビリパンツになったり、日常の排泄状況を皆で把握し自立した支援に繋がるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方は、1人1人病院へ連絡しDrより下剤の指示を仰ぎ下剤の調整を行い、水分の促しもこまめに行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	機械浴の導入があり、身体レベルに応じ使用している。週2～3回の入浴となっているが、誘い掛けに拒みがある際は、時間、曜日を変更してスムーズに入浴が行える工夫をしている。	毎日お風呂が沸いてる環境があり、必要時にいつでも入浴できる体制を整えている。湯船にゆっくり入る時間を大事にし職員とコミュニケーションを図りながら気持ちよい入浴ができるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ、午前、午後と1h程度のベッド臥床の促しを行っている。不眠の方等は散歩に出向く等、日中の過ごし方の工夫を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人のお薬手帳の管理と、どんな薬を服用しているかの把握に努め、誤薬無い様、名前と本人の顔と確認をして、服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出支援も取り入れ、楽しみを持ち、得意分野の発揮を出来る支援を行っている。(洗濯たみ、箱折)※レクリエーションの参加の誘い掛け。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時は散歩に出向いたり、ランタン、おくんち、弁当持参(ホームで作る)でのピクニック、花見等に出向いている。昨年よりホーム駐車場にてバーベキューを行っている。(御家族も参加)	定期的な外出支援(季節の花・おくんち見学)をおこなっている。法人内のグループホームと合同での交流会があり触れ合う機会を作り楽しく参加できている。近隣を散策したり、家族と協力して外食や墓参り等外出も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少理解力ある方に限っては、小銭程度管理しており、買い物に出向いている。夏祭り等は御家族と共に屋台を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキの代筆や、家族への電話を繋げる等の要望には応えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの調整、換気、照明の配慮及び、季節感のある環境整備を行っている。	ユニットごとに季節の飾りつけを行っている。習字などの作品も掲示している。窓も大きく四季の景色が見渡せるようにしている。入居者、職員と共に一緒に体操をしたり、ソファにゆったり腰掛け思い思いに過ごせる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本居室のこもりきりにはならない様ソファでテレビ視聴、居室で1h程度のベッド臥床、窓辺で過ごす方等、各々が思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やアルバム等の持ち込みや、居室にテレビの持ち込みも可能である。(本の持ち込みなど)	入り口にはそれぞれの好みの「のれん」が掛けてあり各居室を分かりやすくしている。各部屋にトイレがあり電話や冷蔵庫など取り付けることもでき、備え付けのタンスも大きく収納庫も充実している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレの手摺を身長の高い方に合った高さに取り付けたり、排泄が終わったらブザーで知らせて頂く等の工夫を行っている。		